

## 主題：雅歌に描写されているような勝利の生活

メッセージ 14

### 愛する方と共に働く

聖書：雅 7:10-13. I コリント 15:58. 16:10. エペソ 4:12. 啓 2:4-5

- I. 雅歌第 7 章 1 節から 9 節でシュラムの女は、ソロモンの同労者となるように資格づけられます。これは、最終的にキリストの愛する者が主の働きにあずかり、愛する方と共に彼のからだのために共に働く必要があることを示します——I コリント 15:58. 16:10. コロサイ 4:11. エペソ 4:12。
- II. 愛する方と共に働こうとするなら、わたしたちは神の中心的な働きを知らなければなりません——3:17 前半. ピリピ 2:13：
- A. 神の中心的な働き、彼の唯一の働きは、キリストにあるご自身を彼の選びの民の中に造り込んで、キリストのからだのためにご自身を彼らと一にすることです——ガラテヤ 4:19. エペソ 3:17 前半. 4:16。
- B. 神の働きにおける原則は人を得ることであり、人を得ることによって、前進して彼のエコノミーを遂行する道を持つことです——使徒 9:15. 13:1-2：
1. 正しい優先順位はわたしたちが神のために働くことではなく、神がご自身をわたしたちの中に造り込むことです——エペソ 2:10. ピリピ 2:13。
  2. わたしたちが主のために働くのではなく、彼がわたしたちの上で働くのです。ですから、わたしたちは単に主の働き人ではなく主の働きであるべきです——エペソ 2:10。
  3. わたしたちがどのようなパーソンであるかが、どのような実を生み出すかを決定します。わたしたちのパーソンが間違っているなら、自分が行なうことによって何かを建造しても、自分であることによってさらに壊します——マタイ 7:17-18。
- III. 愛する方と共に働こうとするなら、わたしたちは神の働きにはある本質的な特徴があることを認識する必要があります：
- A. 神の働きの開始は彼のみこころにしがっていなければなりません——15:13. I コリント 8:6。
- B. 神の働きの前進は彼の力にしがっています——3:5. ピリピ 3:10。
- C. 神の働きの結果は彼の栄光のためでなければなりません——ヨハネ 7:17-18. エペソ 3:21。
- D. どの働きも、わたしたち自身によって開始されることはできません。どの働きも、わたしたち自身の力によって遂行されることはできません。どの働きも、わたしたち自身の栄光という結果になるべきではありません。
- IV. 愛する方と共に働こうとするなら、生活、働き、行動の間に何の違いもあってはなりません——マルコ 1:14-15：
- A. 主イエスには生活、働き、行動の間に違いはありませんでした：
1. 主は至る所で絶えず働き、彼の生活、働き、行動はすべて同じでした。彼は彼の働き、彼の務めを生きました。
  2. 主イエスにおいて、彼の生活のあらゆる面は同じでした。生活と働きの上に區別

はありませんでした。

- B. 主の生活が彼の働きであったように、わたしたちの生活はわたしたちの働きとなるべきです——ピリピ 1:20-21 前半。
- V. 愛する方と共に働こうとするなら、わたしたちはすべてに十分に円熟し、すべての状況に適合することができる、すなわち、どのような取り扱いにも耐え、どのような環境も受け入れ、どのような状態の下でも働き、どのような機会も取って、務めを遂行することができる命によって働く必要があります——ヨハネ 14:6 前半、使徒 27:22-25、Ⅱコリント 6:1-13。
- VI. 愛する方と共に働こうとするなら、わたしたちは進んで彼のそしりを担わなければなりません——ヘブル 13:13、ローマ 15:3：
- A. 「わたしはこう思います。神はわたしたち使徒をすべてのものの最後に、死に定められたものとして登場させられたのです。なぜなら、わたしたちはこの世に対して、すなわち天使にも人々にも、一つの見せ物となったからです」——Ⅰコリント 4:9。
- B. 「わたしたちは……この世の屑、すべての物のかすのようになっています」—— 13 節後半。
- VII. 愛する方と共に働こうとするなら、わたしたちの働きは彼のからだのためでなければなりません——雅 7:10-13、エペソ 4:4, 16：
- A. 働きはからだが増進を追い求めることです。働きは成長したからだから到達します——使徒 13:1-2、エペソ 4:4, 16：
1. 働きはその存在に由来し、その場所を見だし、からだの益のために働きます。この原則の重要性は強調しすぎることはありません—— 12 節。
  2. からだは今日、神の子供たちの生活と働きの支配する法則です—— 1:22-23、Ⅰコリント 12:4-6, 12-13, 27。
- B. わたしたちの中の三一の神の働きは、キリストのからだを生み出し建造することです——エペソ 3:16-21、4:4-6, 12, 16。
- C. すべての同労者は唯一のからだのために、普遍的に同じ一つの働きを行なうべきです。働きの開始する点はからだの一です—— 4 節、Ⅰコリント 16:10。
- D. シュラムの女は一つの場所から他の場所に旅をすることによって、彼女の愛する方と共に、全世界のためである働きを遂行することを願います。これは、わたしたちの働きがからだのためでなければならないことを示します——雅 7:11、エペソ 4:12。
- VIII. 愛する方と共に働こうとするなら、わたしたちは彼に対する愛を彼の働きの場所で表明すべきです。主の働きのただ中で、わたしたちは彼に自分の愛をささげるべきです——雅 7:12、マルコ 12:30。
- IX. 愛する方と共に働こうとするなら、わたしたちは初めの愛と初めの働きを持つ必要があります——啓 2:4-5：
- A. 初めの働きとは、初めの愛から出て来て、初めの愛を表現する働きです。
- B. わたしたちが主のために初めの愛で満たされるとき、行なうあらゆることは彼に対する愛から来てそれを表現します——エペソ 3:19、4:16、Ⅱコリント 5:14-15, 20。